様式7　授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号 19105　**学校名** 県立高知南中学校　**氏名** 中河　敬子

研究の背景

研究対象（学年、クラス等） 3年生　**生徒数** 26 名

科目名 3年生　**単位数（授業時数）** 4 時間　**使用教科書名** NEW HORIZON　English Course 3

クラスの様子・特徴

2クラス（76名）を3クラスに分割した少人数クラスである。明るく快活な生徒が多く、英語を声に出すことに積極的である。ペア活動では、和やかな雰囲気の中で楽しく活動する。しかし、定着率は低く、1・2年次の既習内容はあまり身についていない。

問題の確定

生徒が得意とする音読やペア活動を通して、既習・新出の文法事項や文構造のインプットとそのチェックが必要である。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
授業中の反復練習や音読では、元気に声を出す。ペアワークも喜んで取り組む。しかし、計画を持って文法内容をスパイラルに扱っていないため、生徒たちに学んだことを定着させるまでに至っていない。既習・新出内容の反復練習が必要である。	半数の生徒が授業内容の理解に自信が持てていない。『書く』『読む』『聞く』活動はほぼ同じ割合で好む生徒が多いが、『話す』活動を好む生徒は全体の1割程度である。『話す』ことができるためには、既習の文法事項の定着が不可欠である。	CRTの4領域技能の結果では『話す』『書く』活動で全国平均に対して特に低い結果となっている。英語基礎力テストでは、1年次既習の一般動詞の疑問文・否定文・進行形・過去形で正答率30%を下回っている。基礎力が表現活動に欠かせないことがわかる。

リサーチ・クエスチョン

実践的コミュニケーション能力の基礎となる文法力の定着とコミュニケーションへの意欲の向上を図るためにはどのような指導が有効か。

仮説・実践・検証

仮説1 ⇒	実践1 ⇒	検証1
それぞれの授業の中で、新しい文法事項について理解、習熟したつもりでも、次の時間になるとその記憶は薄れていく。過去に遡れば遡るほど定着率は下がる一方である。授業の最初の10分のインプット活動を1週間（4時間）反復練習し、練習したことを小テストでチェックするようにすれば、目標を持った的確な学習ができ、既習・新出の文法や重要語彙の定着率が上がるのではないか。	・生徒たちには“Words ＆Phrases”と称して、毎時間（全4時間）20の重要語句・重要文をペアで1分以内にいくつ読めるかというゲーム感覚の活動を行った。 ・上記の活動と同様のやり方で、1・2年次の文法内容について指示にしたがって文を作りかえるという形式の活動を行った。 ・口頭で反復練習した語句や重要文のテストに向けての書く活動（1部宿題）を行った。	・“Words ＆Phrases”の語句はすでに読めるため生徒たちが自信を持って大きな声で取り組んだ。『わかる』⇒『できる』⇒『おもしろい』ことから学習意欲が向上した。 ・4月と比べ1年次既習事項の得点率の伸びがあった。一般動詞の疑問文・否定文で30%⇒56%、進行形で8.1%⇒50%、過去形で17%⇒58% ・“Words Game”の筆記テストは平均80点で練習の成果が見えた。
仮説2 ⇒	**実践2 ⇒**	**検証2**
ほぼ全員の生徒が単語は概ね読める状態である。しかし、英語の正しい語順は定着しておらず、『話す』『書く』などの表現活動では、主語と述語の順すらおぼつかない生徒がいる。教科書の本文を学習する際に、チャンクごとに前から訳しながら読むという方法をとれば、英語の正しい語順の習得につながるのではないか。また、意味を理解しながら読む活動は読むことへの自信になるのではないか。	『だれが？』『どうする？』『どこに？』と順を追ってチャンクごとに、英語から日本語、日本語から英語への変換をペアで行った。Read & Look up、Shadowingの他、抑揚や発音など表現の目標を設定した音読も試みた。また、ブランクを設けた音読用ワークシートで練習し、最後にブランクを書いて埋めたり、単元によっては音読の後で語順整序問題に取り組んだりするなど、ライティング活動にもつなげた。	生徒の音読活動は活気に満ちている。ペア活動も生き生きと行う。アンケートの結果によると、好きな活動として『読む』活動をあげた生徒が倍増した。ペアワークが好きと答えた生徒が5割から7割に増えた。また、リーディングテストではほぼ全員が好成績であった。音読が語順や文法構造の定着を促したとは言えないが、『授業がわかった』という生徒が4割から8割に増えたことは読めて意味がわかることの表れではないか。
仮説3 ⇒	**実践3 ⇒**	**検証3**
インプットされた文型を、道具として実際に使う活動を行えば、基本文型の定着の確認とコミュニケーションへの意欲の向上につながるのではないか。また、インタビューした内容をその場でレポートする活動や自分のことについて表現する活動を行えば、文法の定着と表現能力の定着が促されるのではないか。	・インタビュー活動を行う。 ・インタビューをしてわかったことをノートに書いてレポートする。 ・自分のことについて口頭で表現した後、ノートに表現する。 ・ALTによるインタビューテストを行う。	・インタビュー活動は積極的でALTのテスト結果は全員が好成績だった。 ・インタビューをして知りえたことをレポートする活動は生徒たちにとって容易であるうえに、『英語でどう書くのか』という知的好奇心も刺激し意欲的に取り組んだ。家で続きをたくさん書いてきた生徒もおり、自主的な学習の動機付けにもなった。 ・インタビューテストで行った内容を中間テストの表現問題に出題すると64%の正答率であった。

研究の成果

毎日の授業の中で、新出文法の導入と習熟に汲々とするあまり、既習の基本的文法事項がおざなりにされてきた。結果として、アウトプットしようにも言語材料と文法力が不足していて思うように表現できない。その弱さを克服するためにインプットの機会を増やすことを試みた。時間の経過と共に薄れていく既習事項をスパイラルに扱いながら短時間でも反復練習することは定着を促すことがわかった。K/Hシステムを志向して取り組んだ音と意味の一体化を行う音読活動は文法構造を手っ取り早くインプットする画期的な方法だった。生徒が『わかる』という実感を持てたことが収穫だ。

今後の授業改善の課題

口頭によるインプットをペーパーの上で定着まで持っていく道筋が見えたことは良かったが、話す活動を苦手とする生徒の数は以前にもまして多い。習った文法を用いたインタビューや語句の速読のペアワークは好むが、既習の文法事項を再構築して発話するとなると自信がないのが現状である。今回はインプットで終わってしまったので、今後はアウトプットの活動へとつなげ、ペアワークをより内実のあるものへと高めたい。

リサーチについての問合せ先：　職場電話　088－831－2811